

CIR Insights Vol.17

[東北大学生・教職員のための教育データレポート]

2023年秋号 学修成果調査にみる学生の4類型

教育評価分析センターでは2014年度より隔年で、卒業・修了時の学生を対象とした「学修成果調査」を、学務審議会と協力しながら実施しています。今回の Insights では、2022年度末の第6回調査における新規設問のうち2つ(Q1、Q2)に注目し、回答の組み合わせで4つの学生類型を考えてみました。学士課程と修士課程を比べると、学士課程では「希望して入学したものの学生生活を有意義と感じられなかった学生(暗転群)」の割合が多いことが目を惹きます。自由記述からはコロナ禍の影響が窺われ、対面授業や課外活動における人間関係の構築が、学士課程では特に重要であることがわかります。

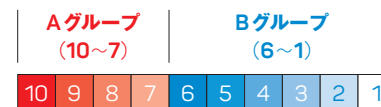
CIRとは？

教育評価分析センターのこと。東北大学における教育・学習活動の体系的なデータ収集・分析を行い、本学の教育マネジメントを支援する組織です。

東北大学
高度教養教育・学生支援機構
教育評価分析センター

〒980-8576 仙台市青葉区川内41
Tel: 022-795-4931
Fax: 022-795-4749
E-mail: cir@ihe.tohoku.ac.jp
http://www.cir.ihe.tohoku.ac.jp

図は「第6回学修成果調査」の結果のうち、
Q1 東北大学への入学は希望に沿っていた
→「東北大学入学の希望度」
Q2 学生生活は有意義だった
→「学生生活の有意義度」
への評価の関係を学士課程・修士課程ごとに比較したものです。10段階評価の10～7および6～1の組み合わせで、右の4群に学生を分けています。



凡例

学生類型	Q1への評価	Q2への評価
堅調群	A (10～7)	A (10～7)
暗転群	A (10～7)	B (6～1)
好転群	B (6～1)	A (10～7)
低迷群	B (6～1)	B (6～1)

各群における自由記述からの抜粋

課程別で見る「東北大学入学の希望度」と「学生生活の有意義度」の関係

堅調群

勉強環境が整っており、先生方にも授業時間に関係なく熱心に指導していただいた。研究者として生きていく道筋が分かった。

暗転群

コロナ禍で通学する機会が少なく対面での授業がほぼなかったため、あまり学習意欲が出なかった。友人と過ごす時間も少なく、満足できるほど学生生活を楽しめなかった。

好転群

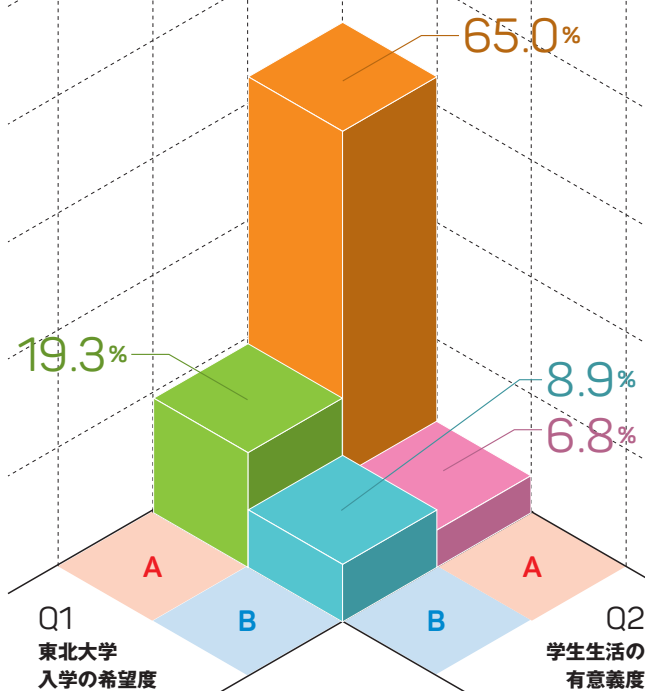
求めれば与えてくれる教員が多く、留学制度が非常に充実している。

低迷群

自由度の高いカリキュラムを活かしきれず、専門性を高められなかった。オンライン講義の期間は希薄な大学生活だったと感じる。

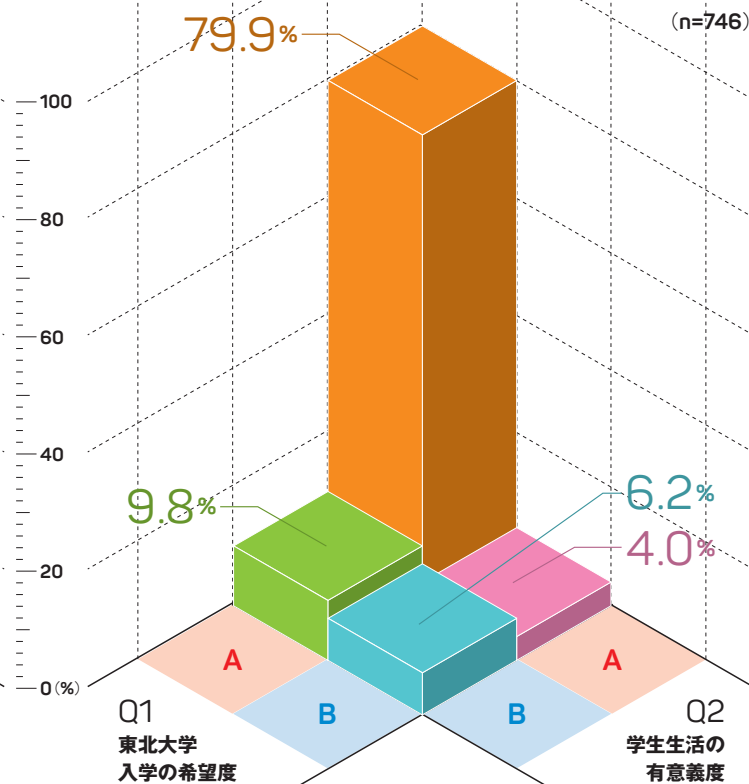
学士課程

(n=939)



修士課程

(n=746)



Tohoku University attaches great importance to students' study and life, and has provided great help to international students like me.

堅調群

教授次第ではあるが、有職者に対する配慮の無さなど、サポート体制に疑問符が付く。

暗転群

自分の成長に必要なと思う環境が整えられていて困ることがなかった。必要な設備も十分に備わっていると感じる。

好転群

高齢の社会人入学だったが、殆どどの期間コロナ感染対策による制約があり、年齢差を埋めるだけの交流ができなかった。

低迷群



CIRと コラボレーション しませんか？

CIRでは全学的な教育に関する調査分析の他に、学内各所の委員会や部局との連携・協力による改善支援を行っています。

これまでCIRが蓄積してきた様々な教育関連データを用い、教育改善に向けた課題抽出、解決のための情報分析をお手伝いします。

ご興味をお持ちの部局、解決したい課題をお持ちの方がおられればお気軽にお問い合わせください。

例えば、こんなことができます「これまでの実績」

➡ 東北大学学務審議会／教育情報・評価改善委員会

CIRは、東北大学学務審議会の下に設置されている教育情報・評価改善委員会からの依頼に基づき、「授業アンケート結果概要」および「成績評価結果概要」をそれぞれ年2回作成しています。それらの報告書は全学教育の科目委員会と共有されることで、教育活動の振り返りと改善に役立てられています。

➡ 国際学位プログラム (FGL) の学修成果検証

英語で学位取得可能な国際学位プログラム (Future Global Leadership: FGL) の卒業生・修了生の学修成果を検証するため、グローバルラーニングセンターと協力し、「第6回 東北大学における教育と学修成果に関する調査」(2022年度に実施)と同様の質問項目を用いた調査を2023年秋に実施。留学生のニーズや成果の把握に努めています。

CIRが実施する調査のご紹介

CIRでは、過去に実施した調査報告書を配付しております。

入手をご希望の方は下記のお問い合わせ先まで、ご連絡ください。

【お問い合わせ】教育評価分析センター →→→ cir@ihe.tohoku.ac.jp



2022年
1月
実施

東北大学の教育に関する卒業・修了者調査報告書

第4回の「卒業・修了者調査」は、本学の学部・大学院を2012年度、2016年度、2020年度に卒業・修了した方を対象に実施しました。これらの年度の卒業・修了生には、「東北大学の教育と学修成果に関する調査」の回答も依頼しており、両調査に協力してくれた方々については、主要項目における回答の変化が確認できる調査設計となっています。

本報告書の第1部では調査全体から得られた結果を概観・分析しています。続く第2部では、卒業・修了生の回答や意見を通して、各学部・研究科に自らの教育研究を振り返ってもらった結果を「所見」として掲載しました。さらに第3部には、卒業・修了生の皆様から寄せられた「自由記述」を含む各種資料を掲載しています。

【目次】

第1部 調査の概要と知見

1. 調査結果の概要
2. 学修成果認識と大学教育の貢献

第2部 各部局の結果に対する所見

第3部 資料(基礎(クロス)集計表・自由記述・調査票・参考資料)

【既刊】 卒後10年の経験から見た東北大学の教育：東北大学の教育に関する卒業・修了者調査報告書(2007年1～2月実施/キャリア支援センター編)
「東北大学の教育に関する卒業・修了者調査」結果の概要(2014年2～3月実施/キャリア支援センター編)
2017年度 東北大学の教育に関する卒業・修了者/雇用者調査報告書(2018年1～2月実施/教育評価分析センター・キャリア支援センター編)



2021年
3月
実施

東北大学の教育と 学修成果に関する調査報告書

2012年度から2年に1度実施されている「東北大学の教育と学修成果に関する調査」の第5回報告書が発刊されました。

本報告書では、2020年度に本学を卒業・修了した学生たちが東北大学での経験を振り返った結果をまとめています。これまでの調査結果との経年比較も参考にしつつ、東北大学生の学修成果の現状を正確に把握し、将来を展望するための一素材としてご活用いただける内容となっています。

【目次】

第1部 調査結果全体に関する概要

調査概要と経年比較の結果について
「第7回教育調査研究会」スライド資料

第2部 各部局の結果に対する所見

第3部 資料(基礎集計表・自由記述・調査票)

【既刊】 第1回 東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書(2013年3月実施)
第2回 東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書(2015年3月実施)
第3回 東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書(2017年3月実施)
第4回 東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書(2019年3月実施)